

同窓会会報

高知県立大学看護学部

第7号

平成25年9月20日発行

〒781-8515 高知市池2751-1



看護学部棟中庭 “乙女の像”

ごあいさつ

同窓会会長 梶原和歌

“火筒のひびき”

この原稿を書いている8月、ぜひ後輩たちに語り継ぎたいことがあります。

それは“戦争と看護”の問題です。私の在学時「内科看護」を教えて下さったのは山崎近衛先生というきれいなソプラノの声の恵比須顔の方でした。彼女は土佐山田出身で現土佐女子高校に汽車通学中、車窓から見えたりっばな洋風建物の高知赤十字病院と白衣の天使という響きに憧れ、15歳で日赤看護婦養成所に入り、3年養成課程を経て高知赤十字病院に勤務され、24歳で上海派特別救護班要員として招集され、なんと40歳で帰国するまで第二次大戦と中国での抑留体験をされた後、44歳で高知女子大学衛生看護学科に勤務されていました。先生の著書“火筒のひびき”で「ふりかえる過去が楽しい思い出の多い人は幸せです。人間は誰でも、生きていくには絶えず悩みながらも、また明るく生きていっているであろう。(略)自分の人生が人並でないのは、人を看護するという身が、いかに命令とはいえ、人を殺さねばならなかった運命に立たされた時、それは自分が死ぬことよりも辛いことであり、一生誰にも話さず筆にもせず、胸一つにしまっておこうと思った」が、60歳を過ぎて記憶に残るものの一部でも書き綴ろうと決意されたのが高新企業(株)出版部から出された500冊限定非売品の本でした。当時高知新聞に連載され、大きな反響をよびました。一人のナースが体験した実話は災害看護にも通じる哀切と倫理的課題に満ちています。私たちが平和ボケしている間に歴史の歯車が逆走しないためにも再版の許可をご家族からいただきたいと念じています。フローレンス・ナイチンゲールの活動の原点はクリミヤの野戦病院でした。戦争という最大の危機状況を防ぐ感受性と戦争(内戦や災害を含む)体験の中から新しい看護学をうたてるのもこれからの看護ではないでしょうか。災害看護の共同大学院教育課程のスタートに期待します。



主な内容

- ①同窓会会長ごあいさつ
- ②久常節子さんフローレンス・ナイチンゲール 記章受章
- ③同窓会総会報告
- ④同窓会名誉会員の称号授与
- ⑤シャンソンのタバ
- ⑥温故知新
- ⑦第39回 高知女子大学看護学会の報告
- ⑧日本小児看護学会 in 高知
- ⑨看護学部の活動

おめでとう！久常節子さん ナイチンゲール記章受章

平成25年8月7日、第44回フローレンス・ナイチンゲール記章授章式が皇后陛下ご臨席のもと開催され、久常節子さんが受章されました。おめでとうございます。

一昨年は南裕子学長が、そして今年、石巻日赤副院長の金愛子さんとお二人が受章となりました。

久常さんの受章理由は看護の発展と看護職の専門性を高めるために、一貫して実質的な推進役を担い活動してきたことが評価されたものです。具体的には阪神・淡路大震災で厚生省健康政策局看護課長として保健師や臨床心理士をチームで派遣する「こころのケア」施策の糸口づくり、東日本大震災では日本看護協会会長として災害対策本部を立ち上げ、延べ3,674名の災害支援ナースと支援物資を現地に送り出したこと、新たな看護職員配置基準「患者7人対して看護師1人」を診療報酬に反映させたこと、「新人看護師卒後臨床研修制度の努力義務化」など、看護の質向上や労働環境改善に貢献したことがあげられていました。

本同窓会からは高知女子大学名誉教授の山崎智子先生と梶原和歌がお祝いのパーティに参加させていただき、うれしい気持ちをお伝えしました。
梶原和歌(記)



久常節子氏
(14期生)

私の歩いた看護の道程 -フローレンス・ナイチンゲール記章を受章して-

国際医療福祉大学大学院 副大学院長 久常節子

高知女子大家政学部衛生看護学科に入学した年から数えて五十年になる。

臨床実習で血液を見るとスーと血が引いて立っていられなくなる体質であることがわかったけれど、「看護の面白さ」と、「自分の力のなさ」を実感し、もう少し勉強したいと初めて思った。看護の大学院などない時代、社会福祉の修士課程を修了して、大阪府の保健師になった。保健師活動を合計4年、2つの大学の看護学部の創設にかかわり、国立公衆衛生院で保健師の卒後教育に従事し、基礎教育、卒後教育合わせて24年間務めた。ここまではまだ看護の延長線上にあった。しかし厚生労働省での、保健指導室長、看護課長としての役人生活、日本看護協会会長としての看護政策推進などは、夢にも考えたことがなかった。

特に役人生活で准看護婦養成中止に取り組んだ時ほど苦しい日々はなかった。あれから15、6年このことを話題にすることもつらかった。しかしこれらの経験から職能団体の重要性とその強化が必要であることを実感し、日本看護協会会長選挙に出た。

そこで、看護職の研修制度の努力義務化、保健師、助産師の教育を一年以上に、看護職の配置7対1の実現、看護職の労働環境の改善などに取り組めた。准看護教育の停止、看護師教育の4年制化は実現できなかったが、想定外の人生もまた楽し！母校に心から感謝している。



(写真: 日本赤十字社)



(写真: 日本赤十字社)



(写真: 日本赤十字社)

Florence Nightingale
Medal



ナイチンゲール記章受章記念祝賀会にて



平成25年度 同窓会総会報告

平成25年7月20日(土)、平成25年度看護学部同窓会総会が開催されました。本年度の総会は、ジャズ喫茶ALTEC(アルテック)で開催し、県内外から駆けつけてくれた56名の参加のもと行われました。

議事

議長に近澤範子氏(20期生)を選出し、次第に則って議事が審議されました。

平成24年度活動報告・決算報告

庶務担当の森下利子氏より平成24年度同窓会活動報告がされました。

引き続き、会見担当の槇本香氏より、平成24年度決算報告がなされ承認されました。

平成25年度活動計画、役員について報告がされ、承認されました。本年度より、新たに、高知女子大学看護学会支援費として50万円を予算化することが承認されました。

会次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議長選出
4. 議事
 - 1) 報告事項
 - (1) 平成24年度活動報告について
 - (2) 平成24年度決算報告について
 - (3) 平成24年度会計監査報告について
 - (4) 名誉会員の承認について
 - 2) 審議事項
 - (1) 平成25年度活動計画案
 - (2) 平成25年度予算案
 - (3) 平成25・26年度役員について
5. 名誉会員への称号授与
6. 看護学部長あいさつ
7. 閉会

平成25年度活動計画

- 1) 総会
- 2) 役員会
- 3) 講演会(高知女子大学看護学会との共催)
講演1 日時:平成25年7月20日(土)
テーマ「ナラティブ・アプローチの可能性」
講師:田中美恵子先生
(東京女子医科大学教授)
- 4) 会報発行 第7号、第8号発行
- 5) 学生災害ボランティアへの支援
- 6) 高知女子大学看護学会への活動支援

平成24年度活動報告

1. 会議
 - 1) 総会 平成24年7月15日
 - 2) 役員会 3回開催
2. 事業
 - 1) 講演会(高知女子大学看護学会との共催)
講演 テーマ「実践の知を紡ぐー実践から学び、看護を創造する」
講師:陣田泰子先生
(済生会横浜市南部病院院長補佐)
 - 2) 会報発行 第5号・第6号
 - 3) 学生災害ボランティアへの支援

名誉会員への称号授与



梶原会長から
山崎美恵子先生
への称号授与



梶原会長から
松本女里先生
への称号授与



総会の様子

同窓会役員名簿(平成25・26年度)



役員名	氏名	卒業・修了期	所属
会長	梶原和歌	10期生	近森病院看護部
副会長	野嶋佐由美* ¹	20期生	高知県立大学看護学部
	中野綾美* ²	27期生	高知県立大学看護学部
書記	中西純子	博士1期生	愛媛県立医療技術大学
	池添志乃	34期生,修士2期生 博士1期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子	35期生	高知県立大学看護学部
	榎本 香	51期生,修士12期生	高知県立大学看護学部
会計監査	山本雅子	23期生	健康政策部健康長寿政策課
	久保田加代子	25期生	高知医療センター看護局
庶務	角谷広子	25期生,修士5期生	芸西病院看護部
	森下利子	19期生	高知県立大学看護学部
	石井 歩* ³	49期生,修士12期生	高知県立大学看護学会

*¹:看護学会会長
*²:看護学部長
*³:看護学会役員
は当て職とする

平成24年度 会計報告

○収入の部 (平成24年 4月 1日から平成25年 3月 31日)

費目	予算額	収入額	備考
前年度繰り越し	7,436,442	7,436,442	平成24年度在学生(学部、大学院)の終身会費を含む
平成24年度会費	1,530,000	1,530,000	学部生84名 大学院生18名 合計102名×15,000円
寄付金	250,000	178,000	27名分
雑収入	1,000	1,019	利息
収入合計	9,217,442	9,145,461	

○支出の部

費目	予算額	支出額	備考	
会議費	20,000	11,600	役員会等	
事業費	同窓会報発行費	400,000	400,000	会報発行2回
	学生支援費	100,000	100,000	学生災害ボランティア活動費
事務費	通信費	300,000	182,440	配送費、切手代等
	印刷費	70,000	60,021	インクカートリッジ代等
	消耗品費	50,000	21,340	同窓会印鑑など
報償費	65,000	51,680	アルバイト代・各種手数料等	
予備費	8,212,442	5,000	日本看護系大学協議会災害義援金(H23年度未処理分)	
支出合計	9,217,442	1,142,130		

平成24年度 決算残高 収入合計 ¥9,145,461
支出合計 ¥ 832,081
差引残高総計 ¥8,313,380

平成24年度決算報告について
監査を行い、以上相違ありません。

久保田 加代子
山本 雅子

平成25年度 予算案

○収入の部 (平成25年 4月 1日から平成26年 3月 31日)

費目	予算額	備考
平成24年度繰越金	8,313,380	平成25年度在校生(学部、大学院)の終身会費を含む
平成25年度会費	1,500,000	学部生81人 修士16人、博士3名 合計15,000円×100名
寄付金	250,000	1口1,000円×250口
雑収入	1,000	利息
収入合計	10,064,380	

○支出の部

費目	予算額	備考	
会議費	20,000	役員会等	
事業費	同窓会報発行費	400,000	会報発行 2回
	高知女子大学看護学会共催事業費	130,000	第39回高知女子大学看護学会講演会講師旅費・宿泊費・謝金等
	高知女子大学看護学会支援費	500,000	高知女子大学看護学会への活動支援費
	同窓会運営費	110,000	総会会場費 名誉会員認定者旅費等
	親睦・交流会運営費	30,000	謝金
	学生支援費	100,000	学生災害ボランティア活動費(交通費等)
事務費	通信費	300,000	郵送料、切手代、はがき代等
	印刷費	70,000	封筒印刷等
	消耗品費	50,000	事務用品
	報償費	60,000	会報発送作業等 アルバイト料・各種手数料等
予備費	8,294,380		
支出合計	10,064,380		

山崎美恵子先生と松本女里先生に 同窓会名誉会員の称号が授与されました

同窓会会則第5条の会員の規定により、このたび役員会では高知女子大学名誉教授であり、元看護学部長の山崎美恵子先生(5期生)、ならびに高知女子大学名誉教授であり、高知女子大学看護学会長および高知県立大学同窓会副会長を務められた松本女里先生(8期生)の両名を名誉会員として決定し、平成25年度同窓会総会にて承認されました。

梶原会長から総会の席上、両名に対して名誉会員第2号、第3号の称号が授与されました。

山崎美恵子先生、松本女里先生からメッセージをいただきました。



山崎美恵子先生

私は高知県立大学看護学部同窓会からこの度、名誉会員の称号をいただきました。平成21年5月に有志による同窓会設立準備委員会の一人に加わらせていただき、平成22年度から看護学部同窓会は発足しました。当時の同窓会会長の南裕子先生(現高知県立大学理事長兼学長)の会長挨拶の中に、これまでは高知女子大学看護学会は同窓会のような役割も果たしてきたが、学会は学会としての役割を果たし、看護学部の同窓生としてのネットワークを構築していくことの意義について述べられました。

私は会報第2号に「同窓生の絆と重み」と題して、高知女子大学での25年間の教員生活の経験を通して強く感じていることの所感を述べさせていただきました。今、また感じていることは、「小さな種は年月と共に大きく稔り発展する」ということです。高知女子大学家政学部看護学科でうぶ声をあげた看護学科が、平成10年4月に看護学部へと昇格しました。それから今日まで会報からの紹介記事は、私にとっては号を重ねるごとに教育の内容の充実を知ることができ感服の至りであります。それは先生方の時代を見据えた教育の取り組みや卒業生の前向きな姿勢の賜物であると思っています。

看護学部同窓生の一人として名誉会員の称号を戴きましたことは、歴史の流れの一点に身をおきました私にとりまして身にあまる光栄に感じています。私は暦年齢に逆らうことはできませんが、何時までも社会と繋がっていたいと思う気持ちを維持しながら、看護学部の発展と伝統ある同窓生の絆が深まることを願っています。

高知を去って10年、第二の故郷となった高知は、何時訪れても親しい顔に出会え嬉しいことです。夏は、学会・同窓会と懐かしい人々に会い、旧交を温める大切なひとときになっております。

在職中は保健師として、また教師として、学生の実習を通じて地域に出かけることが多く、何処の地名もなじみがあり、懐かしく新聞を読んでいても高知の地名はパッと目に入ってきます。かねてから退職したら、今まで実現できなかったことをしたい、第二の人生を豊かなものにしたいと考えておりました。まったく仕事から離れることも淋しいので、何か資格を生かしたボランティアの仕事がしたい、見聞を広めるために海外旅行も、美術館めぐりもと考えておりました。今の私は、ほぼこの願いが叶えられ幸せだと思います。何といても健康に恵まれていることが一番でしょうか。退職してからの生活は不規則になりがちなので生活のリズムを整えることから始めました。運動・栄養・休養が健康保持増進の原則ですから、これを守るために、在職中は夜中まで仕事をする人間でしたので、朝型に切り替えました。5時起床、早朝ウォーキングを決め、約1時間半、近くの中川の土手から葛西臨海公園の中を散歩することにしました。松林や桜並木の間を海に向かって、朝の清々しい空気を一杯吸い込み、歩くことを一日の始まりとしました。悪天候の日、仕事や旅行で外出しないかぎり毎日続けております。毎朝歩くことで仲間が出来、今までとは違った世界が広がりました。散歩中の犬達と仲良くなることも楽しいものです。

ボランティアの方は、聖路加看護大学の市民に対する健康相談に週一回出かけ、頭を働かすことに努めております。この健康相談には様々な人が訪れ、大いに勉強させられております。また、NPO・「希望と絆」の一員として被災地福島に行き、避難所や仮設住宅、借り上げ住宅で生活しておられる方々の健康チェックをいたしました。あの未曾有の大災害を受けられた方々の何かお役に立てばと思ひ、保健師として活動したのです。実際現地に行き、被害の大きさ、とりわけ原発事故のひどさに胸が痛み、高齢者の方々の受けられた傷の深さに無力感におそわれました。しかし、人はどのような境遇に置かれても、笑顔を忘れず生きてゆく強さを持っているものだ、かえって私の方が励まされ、多くのことを学び考えさせられたことでした。

まだまだ学ぶことは沢山あり、やれることもあるので、これからも健康で、私にできることをし、人生を楽しみたいと考えております。



松本女里先生

シャンソンの夕べ



総会に先立って、会場となった高知を代表するジャズ喫茶「ALTEC」で、約1時間、シャンソンの代表的な楽曲10曲（パリの空の下・わが麗しき恋物語・インシャラーなど）に耳を傾けました。

参加者の多くは、日頃、生でシャンソンを聴く機会がなかったため、ピアノの演奏と歌手の情感あふれる歌声に、歌詞の意味に込められた状況を思い浮かべながら、聞き入りました。



シャンソンーロメモ

シャンソン (chanson) は、フランス語で歌の意味で、現代のフランス語圏においては、シャンソンは歌全般を意味し、特定ジャンルの楽曲を指すものではないとされています。人生の悲しみや喜び、愛の情景なども折り込んだ歌詞が特徴的です。

同窓会に参加して



近澤範子さん
(20期生)

久しぶりに母校の学会と看護学部同窓会に参加させていただき、発展し続けるパワーに感銘を受けました。アルテックでの“シャンソンの夕べ”は、恩師はじめ諸先輩方や懐かしい方々との再会が嬉しいひとときでした。「ちっとも変わらんねえ！」と言い合いながらも、同期生の野嶋さんは副学長・学会長、ひと回り上の山崎さんは既にお孫さんもいる現役の精神科看護実践家、かつての助手時代の学生さんたちは学部長、教授、准教授、看護部長等々にご活躍中で、いきいきしたお姿が眩しく映りました。私は平成3年から兵庫県に移り、県立看護大学開設準備室を経て開学以来20年間、学部・大学院(専門看護師教育課程)の教育に携わり、今年3月末に退職しました。母校での学びと卒業後の17年間—県立中央病院での実践、母校での教育経験を経て、聖路加看護大学大学院で精神看護学の理論と研究法を学び、芸西病院で精神科看護実践の醍醐味を味わった—その全ての経験から学んだ精髓を若い人たちに伝えつつ成長過程に寄り添い、実践家たちとともに学びあう中で、教育・研究・実践の連動と循環に関わる喜びを実感した日々でもありました。

この間には、阪神淡路大震災の体験からの学びをもとに、被災者と援助者の心のケアに関する支援活動と備えのための教育研修に取り組み、東日本大震災後も継続してきました。また、看護師のメンタルヘルス支援やストレスマネジメント等、これまで取り組んできた諸活動に、これからも可能な形で携わりながら、人生の次のステージに歩み出したいと思っております。感謝の気持ちを込めて・・・。

同窓会 シャンソンの夕べに参加して



岡本充子さん
(36期生 修士1期生)

高知県立大学看護学部同窓会設立の年に総会に参加して以来、久しぶりに同窓会総会に参加させていただきました。

まずは、『シャンソンの夕べ』から始まり、初めて触れたシャンソンの歌声、その世界観に惹きつけられました。そして、その余韻を残しつつ総会が始まり、山崎美恵子先生、松本女里先生が名誉会員の称号授与が決定、改めて先生方の輝かしい足跡を実感しました。残念なことに学部時代の同期には会えませんでした。お世話になった先生方をはじめ、各地で活躍している大学院時代の同期や諸先輩方の顔を拝見することができ、懐かしく思うとともに、同窓生の一人としてこの場にいられることを誇らしく思いました。

2002年に老人看護専門看護師の認定を受け、老人看護専門看護師として何ができるのかを常に考えながら一步一步前に進んできました。今回、同窓会に参加し、先輩方の築いてこられた看護の道を大切にしながら、私自身微力ですが看護の発展に寄与していけたらと思ったことでした。

健康生活科学研究科9期生です。私は、現在、日本赤十字豊田看護大学で精神看護学の教員をしています。博士課程に在籍し、今年でいよいよ5年目となり名古屋から高知まで片道500Kmを足しげく通っております。精神的に余裕のない状況でしたが、しっかりと同窓会には参加させていただきました。

同窓会には、後ろを振り向けられないほどの諸先輩方がずらり。緊張のなか、始まったのは、大人な世界のシャンソン。数時間前には、高知女子大学でナラティブの講演を聞き、音楽もナラティブなんだよねと思ひながらしみじみと鑑賞。こどもには難しい世界観を体験しました。その後総会を経て、懇親会。やはり同窓生でグループとなり談笑。近況報告会では、諸先輩方の今なお活躍されているお話、社会とつながることの大切さを教えていただきました。温かい雰囲気のおかげで、歴史の重みと先輩後輩のつながり、やっぱりこの大学に来てよかったなと感じるひとときでした。



岩瀬貴子さん
(博士9期生)



森木妙子さん
(30期生 修士5期生
博士13期生)

シャンソンにひきつけられ、昭和59年に大学を卒業後、初めて同窓会に出席させていただきました。今宵の「シャンソンの夕べ」の音楽がピアノとともに足の裏から全身に伝わり、心地よく感じられました。そして懐かしいおしゃべりは昔を思い出しながら、笑顔や幸せを運んで来てくださり、心が癒される時間となりました。

高知県立大学は災害看護学における取り組みとしてグローバルリーダーを養成するという責任を果たしながら更なる進化を遂げています。私は現在もたくさんの同窓生の方に助けられながら仕事ができ、そのことを考えますとこの看護学部の同窓生のつながりが、当大学の強みであり、大学の発展に大きく貢献しているのではないかと思います。そしてこの4月から博士課程に進学し、毎日が退屈でない、スリルのある日々を送っているところです。今回その同級生たちと一緒に参加しましたが、これからはさらに輪が広がり、高知県立大学の看護学部がますます発展していきますことを応援していきます。

同窓会は、現代の建物にはない魅力的な空間でシャンソンの演奏とともにスタートした。冒頭の南先生の挨拶は、「おかえりなさい」の言葉から始まった。おかえりなさいという言葉は、故郷や家族など大切な居場所を連想させ、高知県立大学という場が卒業生にとって大切な場と仲間を連想させると同時に、一瞬に場が和んでいったのを感じた。

シャンソンの演奏では、「苦労をする女は美しい？」というフレーズに思わず、同級生と目を合わせた。「美しいかは別として、今の私たちの状況みただね？」という言葉を交わした。課題を必死になって考えている今の現状と重なったからである。

名誉会員の先生方の挨拶は、社会貢献、看護の発展に取り組みたいという内容であった。先生方の築き上げてきた伝統とおもてなしの心、絶え間ない努力に恥じないよう、私も学びを積み重ねていきたいと感じた。最後に、同窓会の準備からご尽力いただいた先生方に感謝申し上げます。



渡辺美保さん
(博士13期生)



温故知新 その3



高等看護學講座		全29巻	
昭和40年刊行 巻本 目次			
1. 解剖学	200	12. 内科学	200
2. 生理学	200	13. 外科	200
3. 病理学	200	14. 小児科	200
4. 薬理学	200	15. 産科	200
5. 個人衛生	200	16. 皮膚科	200
6. 公衆衛生	200	17. 精神科	200
7. 看護学	200	18. 看護学	200
8. 看護学	200	19. 看護学	200
9. 看護学	200	20. 看護学	200
10. 看護学	200	21. 看護学	200
11. 看護学	200	22. 看護学	200
12. 看護学	200	23. 看護学	200
13. 看護学	200	24. 看護学	200
14. 看護学	200	25. 看護学	200
15. 看護学	200	26. 看護学	200
16. 看護学	200	27. 看護学	200
17. 看護学	200	28. 看護学	200
18. 看護学	200	29. 看護学	200

今回も、(一部の方には大好評の)高等看護學講座のご紹介をいたします。

※文献引用につきましては、医学書院の方に承諾をいただいております。一部現代仮名遣いに修正しています

《第5巻 個人衛生・公衆衛生・公衆衛生看護》の中で、【個人衛生】はどのように教授されていたのでしょうか。【個人衛生】の章は、「個人衛生と健康」「呼吸と循環」「体重と姿勢」「運動」「休養」「日々の心構え」「食物と食事」「排泄」「沐浴とその他皮膚の衛生」「衣服と家屋」「青春と結婚」「視力と聴力の保全」の項目で成り立っています。

特に興味深い「青春と結婚」の項から『男女交際』を取りあげてみましょう。

「若い男女の交際は、今日の社会に於いて、旧式な習慣によっては抑制し得ないばかりでなく、良い点もあるが、同時に多くの弊害を伴うものである。それを避けるには、特別の注意が必要である。(中略)

女は男の前で表情が豊かになり、愛嬌が出て美しく見えるのは当然だが、故意に異性の注意を自分に惹くために媚態を演じてはならぬ。眼指で男子の心を射止めるのに、無上の快感を覚ゆる誘惑に勝たなければならぬ。

未だ結婚期に達しない若い男女の交際は、集团的であるのが安全である。個人交際は避けたほうがよい。無責任な遊戯的戀愛は厳禁すべきだ。男女が親しく交際すると知らぬ間に戀愛が芽生え、異性の美德として、これまで空想していたことを、皆、現在対象とする異性に幻の如く描き出して錯覚に陥っていることが多い。実際、互いにロマンチックな気分で芝居をしている。個人的交際、個人的戀愛は結婚期のみに行われるべきもので、勉強中の男女は無責任な戀愛を早く中止すべきだ。

職場の戀愛は、同僚に不快を感じしめ、規律を紊(みだ)し、作業能率を下げる。これも厳禁。

治安の悪い昨今の状況では、日没後女子の独り歩きは禁止すべきだ。死地に赴くに等しい事を自覚すべきだ。異国の異性に対する好奇心、冒険心が禍(わざわい)して数々の不幸な事件が起こる。慎まねばならぬ。」

学生の恋愛禁止、職場恋愛禁止、外国人との恋愛禁止といったことが教科書に書かれていることは驚きですが、60年前の父親が、自分の娘を心配して一生懸命お説教しているような真面目さが伝わります。果たして、この教科書で勉強された諸先輩方は、このような【個人衛生】を遵守されていたのでしょうか?あるいは「教科書を鵝呑みにするな」の伝統を築く礎になられたのでしょうか?

教科書やその他の古い看護の文献、あるいは看護の雑誌等をお持ちの方で、寄贈してもいいとおっしゃる方がいらっしゃったら、是非下記までご連絡・ご送付【連絡後、送料受け取り人払い】下さいますようお願い申し上げます。

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部同窓会 088-847-8718 (担当:川上理子)

第39回 高知女子大学 看護学会の報告

平成25年7月20日『看護を拓くナラティブ・アプローチ』をテーマに、高知女子大学看護学会が開催されました。当日は204名のみなさまの参加をえて、活気ある学術集会となりました。

講演会

東京女子医科大学看護学部教授 田中美恵子先生に御登壇いただきました。「ナラティブ・アプローチの可能性」というテーマのもとナラティブという方法を手がかりに現実接近していくことを通して、看護職者は何を見いだすことができるのか、先生の実践・研究経験を通してお話しをしていただきました。

参加者の方からは、「とてもわかりやすかった」「もっと先生のお話を聞きたかった」などの感想が寄せられました。



東京女子医科大学看護学部
教授 田中美恵子先生

ワークショップ

午後からのワークショップは、「病と生きる人の語り」「認知症のケアを提供する人の語り」「地域での生活を支える人の語り」「看護師の語り」「発達障害を持つ子どもの親の語り」の5つのテーマにて、病者、家族、そしてケア提供者などの語りを共有し、日頃の実践活動を見直す機会としました。どのワークショップにもたくさんの方が集まり、あついディスカッションが行われました。



ワークショップテーマ

- 1 「病と生きる人の語り」
- 2 「認知症のケアを提供する人の語り」
- 3 「地域での生活を支える人の語り」
- 4 「看護師の語り」
- 5 「発達障害を持つ子どもの親の語り」
- 6 「研究方法としてのナラティブ・アプローチ」

「病と生きる人の語り」



「認知症のケアを提供する人の語り」



「地域での生活を支える人の語り」



「発達障害を持つ子どもの親の語り」



「看護師の語り」



ワークショップ

今回は新たな試みとして研究方法を取り上げ、「研究方法としてのナラティブ・アプローチ」をテーマに、高知県立大学文化学部の哲学の教員である吉川孝先生と現象学の研究者である中山洋子先生からお話を伺い、ナラティブ・アプローチについて探求する機会としました。

70名ほどの参加者が集まり、ワークショップというには少し多い人数になってしまったのですが、吉川先生、中山先生の問いかけに、フロアから意見や日頃の研究に対する思いが活発に語られ、活気あるワークショップになりました。



総会

ランチョン形式で行われた総会には、60名の学会員に参加いただきました。岸田佐智氏(25期生)、今村優子氏(30期生)が議長として選出され、平成24年度の事業報告、会計決算報告、会計監査報告が行われ、承認されました。続いて、審議事項として、奨学生の選考、平成25年度事業計画案、予算などについて話し合わせ、こちらも承認されました。また、名誉会員として、松本女里先生が推薦され、承認されました。松本女里先生は学会発足以来学会活動に尽力され、平成20年から4年間は学会長として学会の運営・活動に貢献していただきました。総会終了後、松本女里先生には、野嶋佐由美学会長より、名誉会員証、記念品が授与されました。

高知女子大学で教員としてご指導いただいた先生からのメッセージ

1997年から2007年まで、高知女子大学看護学部教授として、ご指導いただいた鈴木志津枝先生が、本年4月神戸市看護大学の学長に就任されました。鈴木先生から、本同窓会に向け、メッセージをいただきました。



鈴木志津枝先生
(22期生)

私は1976年3月に卒業して以来、看護師として7年間、看護教員として21.5年間、看護の仕事に従事しています。兵庫医科大学病院での看護師としての経験や神戸市看護短期大学や神戸大学医療技術短期大学部、高知女子大学での教育経験を経て、2007年10月より神戸市看護大学に異動し、2013年4月より学長に就任いたしました。

これまでのキャリアを振り返ってみますと、本当に豊かな経験をさせていただいたなと思います。時には能力以上の仕事を任せられ悩むことも多々ありましたが、専門分野の中で様々な仕事にチャレンジすることができ、自分自身の成長や学びの機会となったと思います。私のキャリアの中で、看護教員として成長の機会をいただいたのが、高知女子大学(現 高知県立大学)での11.5年間の教員経験でした。大学院博士課程を修了し、1997年4月に母校である高知女子大学に着任いたしました。その当時40歳代前半で教育経験も浅い私でしたが、看護教育に対する思いや熱意は上司や同僚の先生方と同様に強かったと思います。先生方と夜遅くまで話し合いながら大学院修士課程の開設や博士課程の開設に携わった経験や、開設後の大学院教育を軌道に乗せ、さらに教育の質の可視化に取り組んだ貴重な経験、多くの看護職の人々と培ったネットワークは、教員としての自信や新たなことにチャレンジする原動力になっていると思います。

仕事上の岐路に立った時の恩師や先輩からの支援も大きかったと思います。母校である高知女子大学から神戸市看護大学に異動するきっかけとなりましたのは、私の出身が神戸市であったこともありますが、高知女子大学の先輩である池川清子先生(当時、神戸市看護大学学長)や吉永喜久恵先生とのつながりでした。神戸市看護大学着任後から、両先生は自分の専門分野だけに目が行きがちな私に、タイムリーに立ち位置を変えて『全体も見る』ことの重要性を気づかせてくれました。現在の学長としての役割を遂行していく上で、これまで多くの方から教えていただいたことや獲得してきた強靱さを糧にして、先を見通して今やれることを実践していきたいと考えています。

同窓会報への執筆の依頼を受けたことで、自分自身のキャリアを振り返る機会となり、高知女子大学から看護実践や教育に関する本質的な学びを得ていたことや諸先輩から多大な支援を得ていたことなどを再自覚できました。

最後になりましたが、同窓会のますますの発展を祈念いたします。

日本小児看護学会第23回学術集会 in 高知

小児看護に関する実践、教育、及び研究の発展と向上、そして、それらを通して子どもの健康増進に寄与することを目的として、平成25年7月13日(土)～14日(日)の2日間、日本小児看護学会第23回学術集会を四国で初めて、高知県で開催し、盛会のうちに終了いたしました。

高知県立大学看護学部長 中野綾美教授(27期生)が学術集会長であり、メインテーマ『子どもと家族の力を支える 倫理的判断にもとづく小児看護の創造』のもと、会長講演をはじめ、特別講演、教育講演、シンポジウム、テーマセッション、一般口演発表、示説発表など、充実したプログラムが展開されました。全国から看護職者や看護学生も含めた1,248名の参加者とともに、活発な意見交換や子どもと家族に纏わる有意義な学びの場を共有することができました。アンケート調査結果から、子どもと家族を取り巻く社会の動きや時代の変化に即した企画であったこと、ホスピタリティあふれる学会であった等ご意見を頂戴しています。また、看護学部2回生・3回生・4回生の有志の皆さま、大学院生の有志の皆さま、同窓生の皆さまが、とても丁寧で素晴らしい対応をして下さり感動されたというご感想も多数いただきました。

このように、第23回学術集会が盛会であったことは、高知県立大学看護学部同窓会の皆さま、看護学部生の皆さま、大学院看護学研究科・健康生活科学研究科院生の皆さま、地域の看護師の皆さま、看護学部教員の多大なるお力添えの賜物であり、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

小児看護学領域一同



実行委員・ボランティアとして参加して下さった同窓生の感想・学術集会の様子



全国の小児看護に携わる専門職の方々が多く参加されており、就職してからも学び続ける姿勢が必要なのだと感じました。また、実際に呼吸器をつけたお子様などの考えをうかがう場もあり、子どもの思いの強さ、声を聞くことの大切さを学びました。

看護学部4回生(60期生) 石橋 慧
土居 里香
納 万貴

患者会の方々と参加者の方との交流がとても暖かく、私自身もたくさん元気をいただきました。知識、暖かさ、笑顔のパワーがいっぱいの学会だったと思います。大変勉強することが多く、実りの多い2日間でした。

修士1回生(50期生・修士16期生) 安藤 千恵

子どもと家族の力を支える小児看護についてのテーマセッションやシンポジウムでは、学会に参加されている皆様が、さまざまな観点から熱く活発な議論をかわされており、このような小児看護に対する熱気を間近で感じられたことは、私にとって非常に有意義な体験となりました。

修士2回生(修士15期生) 田之頭 恵里



中野先生の会長講演始め、小児看護のメッセージ溢れる素敵な学会でした。担当した会場は学会には珍しいお座敷でしたが、靴を脱いだ和みの空間で終始、活発な意見交換が行われていました。おもてなしに溢れた高知らしい懇親会、先生方同窓生等のチームワークも素晴らしく、その場を共有できましたこと、感謝致します。

九州大学大学院(博士2期生) 濱田 裕子



ご寄付をいただいた方

下記の皆様より寄付をいただきました。誠にありがとうございました。（敬称略 平成25年8月31日現在）

中島 紀恵子(4期) 福岡 恵美子(5期) 福島 晏子(5期)
松本 女里(8期) 岡本 眞知子(22期) 匿名希望 2名

看護学部の活動

高知県立大学では、8月4日(日)にオープンキャンパスを開催しました。
朝早くからたくさん的高校生や保護者、教員の方にお越しいただき、約700名のご来場者をお迎えました！



オープンキャンパスでは、学部説明会、体験授業、在学生との談話など様々なイベントが開催されました。



赤ちゃんの心音を聴診器で聴く体験やお風呂の疑似体験は皆さん興味津々でした。

そこにいるあなたしか救えない命がある「心肺蘇生」のデモンストラーションでは、皆さん熱心に入っていました。



寄付のお願い

同窓会への寄付のご協力をよろしくお願いいたします。
寄付金は、同封の振込用紙にてお願いします。ホームページでもご覧いただけます。
ご不明な点はいつでもお問い合わせください。



編集後記
今年の夏は、日本中が歴史的猛暑に見舞われ、高知の江川崎では41度を超える記録的猛暑で、一躍全国から注目をあびました。
オリンピック開催招致も決定し、久しぶりに国民が明るいニュースに接し、将来への希望が持てる記憶に残る年となりました。
久常節子先生のナイチンゲール記章受章の朗報は、我が同窓会にとっても輝かしい栄誉であり、大変誇らしく思います。
先生には、お忙しい中、メッセージを寄せていただきました。
優れた立派な同窓生を持つ幸せを感じながら、本会報をご覧いただけると幸いです。（森下・池添）

事務局

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部
Fax:088-847-8750

ホームページアドレス

高知県立大学
<http://www.u-kochi.ac.jp/>
高知県立大学看護学部
<http://www.u-kochi.ac.jp/~kango/>

